

# か り ん

神奈川山梨教会連合会だより

## ご挨拶

神奈川山梨教会連合会

会長 福田 光 一



首都圏布教百二十年、立教百五十年、教団独立百十年と三年続けての『お年柄』の最終年を迎え、今年

は独立の意義を深め、金光大神の信心を求め現して参りたいと思ひます。連合会長三年任期の最後の年を先生方、信徒の方々と一体となつて、お道のため、連合会のため誠意をもって諸活動に取り組んで参りたいと思ひます。

去る一月三十日、連合会の総会が開催されました。出席された教師信徒の御顔を拝見しながら、それぞれお道に『ご縁』頂かれ、こうして一同に介することができるとは、いかに有り難いことか、また各教会の御用、仕事を繰り合わせ参加された方々

に頭の下がる思いが致しました。

教祖様が安政六年に天地の親神様より願いを受けられて御立教下され、近藤藤守先生の願いを受けられ明治二十一年に畑徳三郎先生、続いて大場吉太郎先生により東京布教、首都圏布教は着手されました。

さらに明治三十二年に独立請願運動が開かれ、佐藤範雄先生が全権委員となり、岡山県知事の添え書きと独立請願書を七月内務省に提出、翌三十三年、金光教に関する神観、世界観の質疑、教師育成への対応、教会の構造方式の提示など佐藤先生を中心に国への許可を求め、六月十六日に全教の願ひであった一教独立がここに認可されました。

教祖様、四神様、三代金光様、白神師、近藤師、佐藤師、畑師をはじめとする直信先覚先師たちが独立に対しそれぞれに込められた大切な思い、独立の意義を深め、さらにここから道の比礼を願わずにおれません。連合会としましては、九月に開催予定の神奈川県宗教連盟宗教文化講座の運営を始め、各部署の行事、『かりん』の発行やホームページの活用展開、各種収集による社会活動などに努めてまいりたいと思ひます。平成二十二年、この一年、どうかご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 平成22年度

### 神奈川山梨教会連合会 総会報告

#### 総会報告

去る一月三十日(土)午後一時三十分より神奈川教会を会場に「神奈川山梨教会連合会総会」が開催されました。



出席教会は二十教会(出席十七教会・委任状三教会)で、出席状況の内訳は、教師出席十四名、委任四名、欠席一名。信徒出席十三名、委任七名、欠席一名だった。

開会行事に続き、議長に山田信二先生(横浜西教会)が選出され、①平成21年度事業報告案、②平成21年度決算案、③平成22年度事業計画案、④平成22年度予算案の審議がなされ、原案通り承認された。

また、その他の事項として、現在は主に、教会の記念祭と教師の帰幽に際して支出されている慶弔費について、その支出の幅を見直した方が良いとの意見が出され、「慶

弔規定」を改めて検討することになった。さらに、これまで節年に行った行事などの残余金を「布教基金」として積み立ててあるが、その取り扱いについても、明確な方向を今後検討していくこととなった。

☆平成21年度 事業報告 (抜粋)

▼立教150年信奉者研修会

日時 四月十一日(土)

会場 鶴見教会

講師 河井信吉師(中野教会)

「立教神伝を頂く」

十二教会、五十六名参加

▼社会活動

各収集活動を実施した。

担当教会は、左記の通り

(ベルマーク) 登戸教会、

(切手・カード) 横須賀教会、

(ボトルキャップ) 鶴見教会、

(プルトップ) 平塚教会

▼親子のつどい

日時 九月十二日(土)

会場 観音崎青少年の村(うどん作り)

観音崎自然博物館 見学

九教会、四十二(大人26、子供16)名参加

▼女性のつどい

日時 七月二日(木)

会場 平塚七夕まつり見学

平塚教会(お話)

講師 熊坂和枝氏(平塚教会)

九教会、三十一名参加

▼講話と夕食の会

日時 十二月二十日(日)

会場 神奈川教会

講師 早野嘉一氏(野毛教会)

「認知症の妻を介護して」

二十六名参加

☆平成22年度 事業計画

1. 総会

日時 平成二十二年一月三十日(土)

会場 神奈川教会

議事 平成二十一年度事業報告・決算

審議、平成二十二年事業計画

・予算審議、その他

2. 神奈川山梨教会連合会長選挙

連合会長任期に伴い、選挙を実施する。

開票日時 十月十四日(木) 十四時

会場 神奈川教会

3. 運営委員会

年四回の開催を予定

4. 公開講演会

「独立一〇〇年を迎え、その意義を頂く」との方針に沿って、神奈川県宗教

連盟宗教文化講座へ参加し、教師信徒

の合同の研修会とする。

日時 九月三日(金) 十四時～十六時

会場 未定

講師 平本行雄師(金光教川西教会)

内容 講演とアニメ「金光さま」の上映

ホームページ

活用と展開

5. ホームページ

活用と展開

6. 連合会だより

『かりん』の発行。年四回(2・4・7

◆ 基本方針

お年柄の意義を受け、金光大神の信心を求め現す。

◆ 活動方針

- (1) 独立110年を迎えその意義を頂く。
- (2) 教師信徒一体となつての布教活動及び社会活動の推進
- (3) 人の助かる人材の育成。

10月)、各八百二十部発行。

7. 社会活動

災害救援活動への対応  
各種収集活動の実践

8. みんなのつどい

レクリエーションを通じて、世代を超えた交流を図る。

日時 七月二十四日(土) 十時

会場 未定

内容 竹とんぼ作りと流しそうめん

9. 女性のつどい

教会の枠を超えた親睦と交流を図る

日時 七月三日(土) 十三時三十分

会場 登戸教会

講師 和田文子氏・和田我八十氏  
(登戸教会)

内容 体験発表

10. 教師部

教会布教の充実活性に向けて研鑽を進める。教団独立百十年のお年柄を迎えて、教団独立の意義について理解を深めるとともに、今日求められる信奉者像を明らかにする。

①教師会の開催

(2/18・9/14・12/14他一泊教師会を予定)

②教師研修会の開催 四月十四日(水)

会場 かながわ県民センター

講師 小柴宣和師

(東京センター所長)

③交流教話の実施 (6~8月に実施)

④教師家庭婦人の会の開催

(例会の開催)

11. 信徒部

①講話と夕食の会 十二月四日(土)

会場 神奈川教会 内容未定

②地域交流会 野毛教会主催のピクニックへの参加などを予定

③山梨県地区の活動

岩井和子氏の演奏会とお話の会の実施を予定

④役員会の開催

12. 首都圏フォーラム活動

フォーラム活動への協力

公開公演会 八月八日(日)

朗読劇「夏の雲は忘れない」

(1945・ヒロシマ ナガサキ)

13. 神奈川県宗教連盟活動



### 首都圏女性の集い 報告

二月十一日(祝)午後一時から、東京教会地下のイーストホールを会場に、首都圏の女性の集いが行われました。ここ数年、女性教師のお話を聴いてその後、班別懇談と言うスタイルです。

今回は浦和教会教徒の江川和子さんのお話でした。

和子さんは、アニメ「金光さま」を制作された江川くにのりさんのお母様です。

お話は、今年百歳になられる和子さんのお母様の信心生活ぶりに始まり、信心を継承した和子さんの奮闘、今はご一家お揃いで信心されている姿を語られました。分けても、くにのりさんが「金光さま」を制作

されて、昭和十七年に入信されたお母様が「数々のおかげを受けて来られたけれど、このことが一番嬉しかった」など、具体的なエピソード満載で、非常に感動的でした。

子育て、信心継承の面でも参考になった方も多かったのではないのでしょうか。

感動的なお話を受けて、あとの班別懇談も活発で、有意義な研修でした。

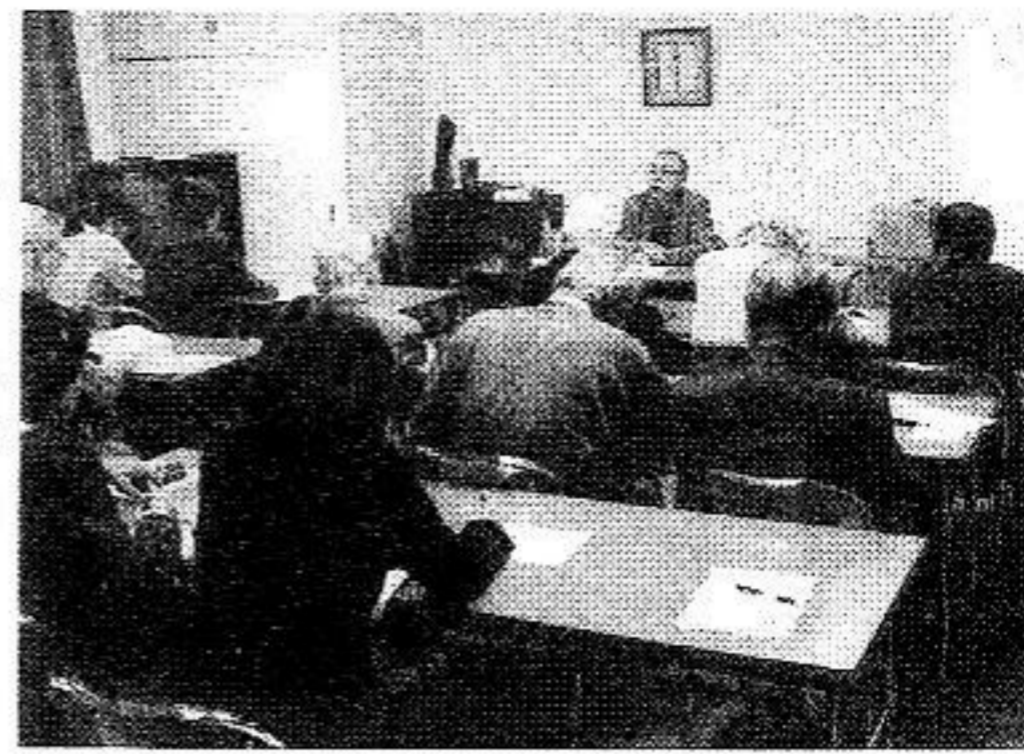
今にも雪が降りそうな寒い日でしたが、参加された方は、お話の中から、船にも車にも積めないようなおかげを頂いて、参加された皆さんは、満足されたのではないのでしょうか。

(大塚 東子)

## 講話と夕食の会

## 認知症の奥さまの

## 介護から学ぶ



12月20日(日)、神奈川教会で講話と夕食の会を開催し、野毛教会の早野嘉一さんから介護のお話を伺った。他人ごとではないテーマに26人が熱心に耳を傾けた。

それは、早野さんがお米の小売業を奥さまと一緒に始められて間もなく、ゴミ出しの日を頻繁に間違えたり、身仕度もきちんとして出来なくなるなどから、奥さまの認知症は始まった。そのことに気づいた早野さんは、そんな奥さまの日常をノートに記録して神経内科を受診し、若年性認知症と診断される。たいていはショックで慌てふためくところだが、早野さんは、たまたま認知症が早くきたかと思って前向きに生きようと心に誓ったという。その誓いのように、認知症が進行していく奥さまときちんと向き合っただけで介護に当たられた。始めは、デイサービスやヘルパーなどの

公的支援を受けながら仕事をしておられたが、それも厳しくなり、身体障害者手帳の交付や障害年金の手続きをして、自宅介護5年の後、現在の特養老人ホームに入所。その1年後には、右半身麻痺、言語障害、寝たきり、舌も麻痺し、食事も胃に穴を開けて摂るようになる。介護は、既に結婚している娘さんと息子さん、そして義姉の方々とローテーションを組んでなさっているという。とは言え、それぞれ家庭には家庭生活があり、なかなか出来ることではない。初期の頃は、自治会費を二度集金に行くようなことがあり、周辺に「奥さんがおかしい」と言う噂が広がった時、早野さんは名刺を配って、奥さまが認知症であることを地域の人に理解して貰ったそう。そのことで随分助けて貰ったと言う。

また週1回、早野さんは、昼食のお世話に行った時には写真を撮り、「今日のお母さん」と題した写メールを家族に送り連絡し合っておられる。その温かい家庭の絆に胸が熱くなる。併せて、近くに住んでおられたご高齢のお母さまも骨折を機に老人ホームに入られ、そのお世話もなさっている。考えただけでも想像に絶する日々だと思われるのに、その上に、ボランティアをしてご自分の体験を地域に還元されている姿は、参加者に力強いメッセージとなったことであらう。

(吉岡 裕子)

## 〈な・が・れ〉

## 『真一心が末のおかげになる』

野毛教会 鈴木 信子

私の祖父、三毛元之助は東京のある教会、初代先生の教えを頂き、信徒総代のお役までさせていたでいておりました。

祖父は六人の子宝に恵まれましたが、病気で次々に亡くし、一人息子も十六才の時に事故で亡くして、末娘の私の母だけが残りました。

その時のことで先生は、三毛さんは熱心に御信心をされているのに、この様なことになってしまい、参拝に見えたら何と申し上げてよいのかと心を痛めていたそうです。葬儀の後、お参りした祖父はお結界で、

「息子は私達に喜びを与えてくれました。十六才まで生かしていただいた御礼に参りました」と言ったそうです。祖父の実意丁寧な信心振りは、不幸に遭っても決して変わることなく、真を尽くして行き届いた信心の在り方は、その後九十三才でお国替えをいただくまで続いておりました。

神様が一人娘の母を残してくれたおかげで、私を始め四人の子供を授かり、孫八人、曾孫三人のおかげを頂き、皆健康と身上安全、充実した幸せを感謝申しております。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光一

横浜市神奈川区青木町六一二十五

〒221-0057 金光教神奈川教会内